

2018年5月号(第7号)

作成・発行 立命館大学 文学部 人文学科  
地域研究学域 京都学専攻

## 【目次】

1. 主任挨拶
2. 卒業生の就職先一覧
3. 卒業生から後輩へ贈るメッセージ
4. 京都学専攻のイベント紹介
5. 立命館京都学研究会の活動記録
6. 立命館京都学研究会の案内

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: aso0605@fkc.ritsumeikan.ac.jp)

立命館大学文学部京都学専攻 facebook  
<https://www.facebook.com/ritsu.kyotogaku/>

## 1. 主任挨拶

京都学専攻は、本年度50名の新2回生を迎えスタートしました。

それぞれが、“京都”に対して多種多様な興味と関心を抱いていることでしょう。本専攻での学びを通じて、地理学、歴史学、日本文学など人文学における各分野の研究手法を身に付けてください。そして、それらをうまく融合し、一般的なイメージにとらわれず、“京都”の深みを追求してほしいと思います。そういった試みが、“京都”だけではなく他の地域社会の理解にもつながっていくものと考えます。

(2018年度春学期主任 河角直美)

## 2. 卒業生の就職先一覧 (2017年度卒業生)

【官公庁】島本町役場、北海道人事委員会

【教育・芸術】徳島県教育委員会

【観光・交通】株式会社阪急交通社、JALスカイ札幌株式会社、阪急電鉄株式会社、

株式会社ジェイアール東海パッセンジャーズ

【建設・製造】新日本製薬株式会社、株式会社中電工、MMCテクニカルサービス株式会社、TOWA株式会社、

中外製薬株式会社、住友林業株式会社、スズキ株式会社、株式会社メイワパックス、

株式会社ハート、株式会社ワイテック、JFEスチール株式会社

【サービス・小売】株式会社エヌリンクス、パーソルプロセス&テクノロジー株式会社、株式会社京阪流通

システムズ、イオンリテール株式会社、日本マクドナルド株式会社、佐竹食品株式会社、

日本郵便株式会社、バンテック株式会社、東宝ビル管理株式会社、住友不動産販売株式会社、

メルセデス・ベンツ日本株式会社、株式会社天満屋、大和ハウス工業株式会社、富尾酒店、

島根トヨタグループ、株式会社ビームス、株式会社TDモバイル、株式会社PALTAC

【金融・保険】住友生命保険相互会社、近畿産業信用組合

【出版・マスコミ】株式会社大新社

### 3. 卒業生から後輩へ贈るメッセージ

#### 船坂 恵里（京都学専攻2017年度卒）

京都とは、私たちが思う以上に奥が深く、複雑で、知れば知るほど何故だろう、と興味を注がれる都市です。京都学では様々な面からアプローチをし、表面的ではなく深い京都の実情を学ぶことができます。振り返れば私は普段出会わないような人々との出会いの中で、彼らの生活の営み、人情、そして社会人として大切な人との関わり方を学びました。

京都学の魅力は、「京都」に特化しているのに、得られるものは無限にあることです。このような広い学びのフィールドは京都学にはしかないと思います。私は京都学で学べたことを誇りに思っています。

例えば、京都学は日本に留まらず、世界を学ぶ上でヒントを提示してくれます。文学部で海外留学を目指している人も多いと思いますが、まずは京都という土地を学んで世界の国々と比較してみてもどうでしょうか。私は大学生活の間に半年間の留学をしました。留学先で京都の話をしたら大勢の学生が聞きたがって集まり、京都を通じて多くの友人が出来たという経験があります。日本人の視点では気が付かなかったことも、彼らは教えてくれました。海外のことを学ぶのはもちろん大切ですが、それ以前に自分の生まれた国、その国の基礎を築く京都を知ることが留学をする大前提だと考えます。長い歴史と最先端の技術を融合させる京都は今後、もっと注目を浴び、世界を牽引する都市の1つになると思います。

最後になりますが、京都学は日本の中でも奥の深い、重厚な歴史のある京都を専門とし、多面的に研究する意義のある学問だと思います。大学4年間で京都は理解しきれません。しかし、しきれないからこそ、大学生活を使って打ち込む価値があります。自分が学んだ京都がほんの一部であっても、その一部がこれからの人生の糧になると思います。進化をし続ける京都にアプローチすることは、大変面白く、大学生活をより良いものにしてくれると思います。

#### 立山 友貴（京都学専攻2017年度卒）

在校生のみなさんへのメッセージとして、私の卒業論文作成の体験談を書いていこうと思います。私の卒業論文のテーマは「京都タワーのイメージ変遷」というものです。

私が卒業論文のテーマを決めたのは3回生の秋ごろだったと思います。他のゼミ仲間たちより少し遅い時期にやっとテーマが定まり、若干の焦りがありました。京都タワーに関する書籍、新聞記事などの資料をひたすら集めているうちに3回生が終わってしまいました。

4回生はひたすら卒業論文に追われる日々でした。就職活動と卒論作成の両立は難しく、就職活動中は全く卒論に手をつけられない状態でした。やっと就活が終わった夏、整理のつかないたくさん資料と手の付けられていない聞き取り調査に「本当にこれで書けるのか」という思いでいっぱいでした。結局聞き取り調査は難航し、調査結果が出そろうたのが提出の3週間前という事態でした。思い返してみるとうまくいかなかったことばかりです。しかし、卒論を提出した日に感じた達成感はいわゆる重みのあるもので、卒論作成過程のハードな思い出も吹き飛ばす、何ものにもかえ難いものでした。

こんなバタバタした作成過程の卒業論文でしたが、我ながら評価できる点もあります。それはテーマについて多角的な見方から考え、理解を深めることができたということです。私の卒業論文は京都タワーをタワーに関わるそれぞれ立場の人の考え方の検討、聞き取り調査、地理的な要因など様々な方法で研究したものです。色々な立場や観点から一つのテーマについて考察したことで、より研究の核心に近づけのではないかと思います。

このような多角的な見方は「京都」を地理、歴史、文学など多角的な面から学ぶ京都学専攻の学びの精神から得られたものだと思います。

長々と体験談を語ってきましたが、卒業論文は諦めないで提出することが大事です。結局はそれにつきます。みなさんが納得して卒業論文を書ききれれることを陰ながら願います。

#### 山田 真梨子（京都学専攻2017年度卒）

皆さんは、普段目にしていない文字のデザインについて考えたことはありますか。丸みのある文字、教科書のような文字、遊び心のある文字。このような文字のデザインのことを「フォント」と言います。一見京都学とは関係ないことのように思いますが、私はこの「フォント」を卒論のテーマとしました。先行研究があまりなく苦労はしましたが、他大学の教授へのインタビューや街頭でのアンケートなど、地域研究の基礎であるフィールドワークを主軸に研究を進めることで卒論として形にすることができました。

このように、京都学とは文学部ながらも京都のことなら何でもできる学問です。また、本校の京都学では伝統工芸の職人さんをお招きした講義や、地域のお祭りのボランティア、ユースホステルでのインターンなど、多種多様で魅力的な学びの場が用意されています。どれも京都学専攻の特権とも言えるべき講義ですので、少しでも興味のあるものには積極的に参加してみてください。卒論と直接関係のないことだとしても、考え方やものの見方など人生の糧となることでしょう。

とは言うものの、このように偉そうなことを述べている私ですが、卒業と共に京都を離れた今、もっと京都を楽しめばよかったという後悔を少なからず抱えています。4年間という月日は長いようで終わってみると短いものです。皆さんにはぜひ、京都で大学生として過ごせる貴重な日々を大切に、存分に京都を楽しみ、京都に学んでいただければと思います。京都学専攻の一卒業生として、皆さんの京都学ライフが充実したものとなるよう願っています。

## 4. 京都学専攻のイベント紹介

京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの成果報告会と嵐電まち歩きマップ成果報告会が2018年3月10日(土)に櫻谷文庫で開催されました。

京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの方は伝統産業の職人さんのご指導による受講生の作品を展示したり、京唐紙刷り体験を行いました。また、授業でお世話になった職人さんをお招きしてお茶を点てました。また、京都市学校歴史博物館の森 光彦先生に「衣笠絵描き村と木島櫻谷」というタイトルでご講演いただきました。

嵐電まち歩きマップ成果報告会では、プロジェクトの参加学生が嵐電沿線地域の隠れた名所やおすすめのスポットについてのパネルを作成・展示したほか、同地域についての思い出などをマップ上に来場された方々に記入いただきました。



森先生のご講演



嵐電マップへの書き込み



京唐紙刷り体験



嵐電マップのパネル展示



京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの作品展示

## 5.立命館京都学研究会の活動記録

京都学専攻では「京都」を軸に文学・歴史学・地理学をはじめ様々な分野から教育・研究・地域連携などの活動が盛んに進められており、これこそが京都学のいちばんの強みです。

2017年度の研究会は下記のとおり回開催されました。いずれも、「京都とは何か」、そして「京都学の進むべき方向は？」について非常に熱い発表と議論が行われました。2018年度も引き続き研究会を開催します。オープンな研究会ですので、ぜひご参加ください。

通算	年度	発表者	タイトル	日時	場所
17回目	1回目	高 正龍 先生	「京都の道しるべ」	2017年5月26日	京都学共同研究室
18回目	2回目	本多 潤子 先生	「後水尾院と禅宗」	2017年7月28日	京都学共同研究室
19回目	3回目	松岡 恵悟 先生	「京都郊外における近代洋風住宅の存続・消失動向について～近代化遺産デジタルマッピングの活用～」	2017年10月18日	京都学共同研究室
20回目	4回目	丸山 彩 先生	「明治期の京都における「音楽」の導入—女学校における教育に着目して—」	2017年12月1日	京都学共同研究室

## 6.立命館京都学研究会の案内

2018年度第1回目(通算21回目)の研究会のご案内をいたします。今回は立命館大学大学院先端総合学術研究科の岩田京子先生にご発表いただきます。ぜひふるってご参加ください。

日時: 2018年 5月25日(金曜日)18:00～

会場: 京都学専攻・地域観光学専攻 共同研究室 (衣笠キャンパス、啓明館1階東端の部屋)

発表者とタイトル: 岩田 京子 先生 (立命館大学大学院 先端総合学術研究科)

### 「現代嵐山の景観をめぐる語り、制度、伝統」

参加費: 無料

事前申込: 不要

どなたでもご参加いただけます。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

お問い合わせはこちらまで。

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
(Tel/Fax 075-466-3485)  
(Mail: aso0605@fkc.ritsume.ac.jp)